

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271300133		
法人名	有限会社 クオリティライフ		
事業所名	グループホームよこたの郷		
所在地	島根県仁多郡奥出雲町下横田27-1		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.fukushi-shimane.or.jp/html/kaigojyuhou/iigvoshou/07.h>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル		
訪問調査日	平成22年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症というハンディを負われたお年寄りさんのできにくくなったところをさりげなく支えて、その人らしさを発揮して生活できるように支援しています。日々の活動に、画一的な決まったプログラムはありません。天気の良い日は、スタッフとドライブや散歩に、また、畑の管理(苗植え・草取り・収穫)に出かけます。気分の乗らない日や雪が降って寒い日は、こたつに入ってみかんでも食べています。ここには、スタッフの笑顔に包まれた、お年寄りさんらしさが盛りだくさんの暮らしがあります。”雨の降る日は雨のように、風吹く夜には風のように、晴れた朝には晴れやかに～”がモットーです。めざすのは、夕凧のようなホームです。認知症を生きるお年寄りさんが、できにくくなった点を見つけて、さりげなくケアをする特別な技術と、その人らしさを見いだす視点を併せ持つスタッフをめざして研修に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

恵まれた自然環境の中で、「地域社会の一員として自信がもてる暮らしとケア」という理念のもとに日常的な散歩や買い物、畑仕事やイベントへの参加など、地域住民との交流を図り、地域との関係を深める取り組みをしている。利用者一人ひとりの生活習慣を大切に、ゆったりと落ち着いた生活環境を作るために管理者は利用者・家族の思いや意向を汲み取ることでなじみの関係作りに努めると共に、利用者と洗濯・掃除・料理等を共にに行いその人らしく暮らし続けるための支援や、運営推進会議の委員を増やし幅広い意見を運営に反映させることで地域に開かれたホーム作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に理念を唱和し、職員の意識の中に浸透するようにしている。実践の中で理念との関連を考える等の取り組みもしている。	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続ける支援を行うために理念である「地域社会の一員として自信がもてる暮らしとケア」について共通の認識を持ち、実践に活かすよう取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の各種イベントに参加するなど、積極的な取り組みをしている。日々の散歩や、地元スーパーへの買い物、畑仕事など地域との関わりは日常的にしている。	地域のイベントや活動に積極的に参加している。今年からは中学校の文化祭にも招待されるようになった。また、日常的な散歩や買い物、畑仕事をする中で、挨拶や言葉を交わし交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	山陰合同銀行三成支店・横田支店の行員さん向けに認知症高齢者ケアについて講師として参加したり、雲南地域の介護職員向けに認知症研修を実施したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から、地元有識者、警察官にも参加していただくようにしている。家族の方や地元自治会の方、行政機関の方々からの幅広いご意見を活かして、運営をしている。	会議は、定期的開催され、施設の活動状況や課題を報告し、委員からも活発な意見が出され施設運営に活かされている。本年度からは幅広い意見を運営に反映させるために委員を増やしている。	会議には職員も参加し書記の役割を担ってもらうなどして、活発な意見交換が残るよう会議録の充実も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、奥出雲町の福祉行政担当課の課長補佐や包括支援センター職員が同席して頂いている。情報交換は随時行われている。これによりスプリンクラーの設置が早期に実現した。	運営推進会議に町職員も出席してもらい、施設の現状・課題を把握してもらおうと共に、管理者は折に触れ役場を訪問し情報の交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、安全面のリスク管理と裏腹である。入居者の心身状況が安定傾向にあると共に、職員の人権意識も高まっており、身体拘束をしないケアが、ごく自然にできている。	敬語を使うことで利用者を敬い、虐待防止に繋げている。また日々のケアや利用者への対応を本人本位で検討することで、拘束をしないケアにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年3月に雲南地域グループホーム部会研修会「高齢者虐待について」に参加し、理解を深めた。日常的にも朝礼を有効に使用して、資質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入居者の家族関係は概ね良好であり、差し迫って制度を利用するケースは無いが、社会福祉現場で働く者の知識として、制度を学ぶ機会を今後設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規利用者に対して、重要事項を基に丁寧に説明を行い、契約締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	階段踊り場に、国保連の介護サービスへの苦情受付ポスターを常時掲示、グループホーム出入口には、苦情相談受付箱を設置している。	ホームの出入口には、苦情相談受付箱を設置するほか、家族の訪問時に意見や要望が言いやすい雰囲気作りに努めている。出された意見、要望はミーティングで話し合い、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや職員会議、日々の活動の中で随時聴いて、細かな改善に努めている。生活の質向上のため、ソファの増設や、ついで立の設置など。	日頃から職員とのコミュニケーションが図りやすい環境作りに努めると共に職員会議等で出された意見を施設運営に反映させる仕組みができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準の引き上げに伴うキャリアパスの作成など条件整備を継続している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、他施設との交換実習や、認知症介護リーダー研修の受け入れなどを実施。他事業所との交流を中心に、職員のレベル向上の取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記の職員交流や、例年開催の雲南地域グループホーム部会に5名の職員が参加し、研修と併せて他のグループホーム職員や小規模多機能施設の職員と交流もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居から3ヶ月程度は、住み心地を中心に細かい問いかけをしながら、本人の想いを感じてのケアの方法を模索し、個人記録用紙を微妙に変化させ、職員で共有して対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり家庭訪問を行い、家族から本人の生活歴などを聴取しながら、ご家族の方自身の心境や入居にあたっての心配事などを察知するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネを通して、入居の打診があるケースがほとんどであり、他のサービスの検討がほぼ終わっている感があるが、インフォーマルサービスを中心に、可能性は検討材料に入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員研修などで、利用者が生活を営んでいくうえで、役割のない生活ほど淋しいものはないという共通理解をしている。日々の食事作り、掃除、洗濯など生活場面で、利用者とは職員が共に行動するようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際や、家庭を訪問させていただいた際などに、随時本人の状況を伝え、必要に応じて協議し、ケアのヒントを一緒に考えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の畑を継続耕作させて頂いたり、地元のお寺や自宅に思い入れのある利用者の要望に応え、定期的(月に1回程度)に自宅やお寺等に行ったりするようにしている。	家庭菜園、お寺参り、馴染みの店でのショッピングや散歩等、利用者一人ひとりの生活習慣を尊重し、できるだけ地域との接点を持ちながら関係を継続させるための支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活ぶりを観察しながら、人間関係を調整している。食事の際に会話が弾むようにしたり、外出時のグループ編成に配慮したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今春、在宅復帰をされた前利用者や担当ケアマネと時々連絡をとりあい、在宅生活継続に協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向については、随時対話をし、方向性を確認している。意思疎通が困難な利用者については、本人の想いを汲み取るようにしている。	日々の関わりの中で声かけ、言葉や表情などからその真意を推し量ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、日々の行動や表情、家族等から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から直接聴いたり、ご家族の面会の折に昔の生活ぶりを尋ねたりしている。利用者の人となりを感じて、ケアにあたるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況は日々変化するし、場合によっては日内変動もある。それらを踏まえて、ケアの微調整をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況変化が起こった場合、ケアの方法を本人と職員で検討し、場合によっては家族と協議する形での介護計画作成を行っている。	日頃の関わりの中で、本人の思いや意見を個人記録に記載し介護計画作成に反映している。見直しは期間ごとや状態に応じて行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	始業時に、個人記録や業務日誌に必ず目を通すように徹底しているので、情報を共有するとともに、利用者の変化に即した実践をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が地元地域の方に会いたいなどの要望があったときに、階下のデイサービスに行き、歓談してもらうような対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅復帰を検討している利用者について自宅周辺の人的資源を調整するなど、在宅生活実現に向けて安全にできるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に永生クリニック・コスモ病院・加藤医院であるが、利用者が、以前から通院していた馴染みのDrに、継続的にかかれるよう支援を続けている。	協力医療機関の他、本人や家族が希望するかかりつけ医での受診や通院時の介助を行っている。また、診療内容が個人ファイルで記録され管理もゆきとどいていた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地元連携病院の永生クリニックの看護師、コスモ病院の訪問看護師に相談をしながら、利用者の体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症のため、入院による環境の変化で混乱される場合が多い。そのため、治療の必要性をDrと相談しながら、早期の退院に向けて協力体制をとっている。今年度も夜間不穏行動に対応してホームに外泊という形で協力体制を組んだ実績がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度や年齢の高い利用者については、既に特養申請を済ませておられるケースが多い。経口摂取が困難になった場合には、継続入居受け入れはしないという基本方針を家族に伝え、今できることをご家族と協議しながらケアを行っている。	重度化や終末期ケアに対しては、グループホームとしての特性や限界もあり、専門医での看取りを基本としながら、本人、家族の希望があれば話し合い検討したいという方針が共有されていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常時掲示してあるマニュアルに沿って行動ができるように、申し送り時などに確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携して消火救出訓練を行った。又、地元消防団への内部状況説明を行った。新たに災害時用食料備蓄等により、内部的には災害に備えている。	消防署と連携して災害時の避難訓練の実施、また、地元消防団との連携を深めるために施設の状況説明を行う等、災害対策についての取り組みが確認された。	消防団のみに留まらず、身近な地域の方も巻き込んだ災害対策の検討を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「あいさつと敬語」という年度目標を掲げ、人格の尊重が常に意識してケアにあたるようにしている。	利用者には、日常生活の中で先輩として敬う気持ちで接するために「あいさつと敬語」という年間目標を掲げ、目立たずさりげない言葉かけや対応をしている。また、知り得た情報に対する管理も徹底していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳が遠くて意思疎通が困難な利用者に対して、身振り手振り時には筆談で理解をいただくようにしたり、お茶の熱い冷たいなどの希望を都度伺うようにしたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員がケア全般に、さりげない支援を心がけている。散歩も引率するという形ではなく、遠くから見守るという支援を多用している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や通院の際の服装には特に気を遣って、おしゃれをするように心がけている。また地元の美容院に行くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に応じて、料理の下ごしらえや盛り付け、食器洗い、片付けなどに積極的に関わってもらうようにしている。献立も日常会話の中で利用者と共に考えている。	食事の準備、片付けなど利用者のできる事を見つけて一緒に行っている。メニューも利用者の希望を聞き栄養士が献立を考え利用者と一緒に食材の買い物に行くなど、食事への関心を引き出すための工夫がなされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な食事内容としており、栄養士を配置して栄養状態を管理している。また、夏場は特に水分補給について番茶ゼリー等で、体調維持管理に努めた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行っており、義歯管理も毎夜薬剤につけ置きして清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の傾向を掴むため、個人記録に排泄時刻を記入するようにしている。なるべく布パンツの着用を継続して頂けるよう、排泄誘導のタイミングを工夫している。夜間の対応が増加している。	なるべく布パンツの着用を継続してもらうために、排泄記録表を活用し、本人の自尊心に配慮しながら排泄パターンを把握して可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の献立が多く、ひどい便秘症状の方はおられないが、排便の確認を一覧表にしており、状況を確認しながら、運動不足になりがちな冬場には、ラジオ体操をするなどの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	概ね1日おきには入浴して頂けるようにしている。ほぼ毎日入浴される方もおられる。体調に配慮しながら、本人の希望に沿う形で支援している。	入浴は概ね1日おきとしているが、本人や家族から一人ひとりの習慣や好みを聴き取り、本人の希望に沿う形で、ゆったりとくつろいで入浴できる環境づくりに心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	廊下の3箇所ソファを置き、のんびりうたた寝をされる姿がよく見られる。又、寒くなると和室にこたつをしているので、自然に丸くなって入られることもしばしばある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬状態は、処方箋コピーで常時確認している。薬の用法や副作用も理解しており、症状の変化についてDrに報告し、微調整もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中では、食事の下準備や洗濯たみなどを中心に、おしゃべりしながら楽しんで行ってもらっている。又、散歩やドライブ、畑仕事など随時活動してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は自ら散歩に出かける場面が時々みられたが、今頃は職員の方が、入居者の気持ちを汲み取っての外出が増えている。近場のドライブや買い物は継続して常々行っている。又、ご家族が引率されるケースも時々ある。	日々の関わりの中で、入居者の気持ちを汲み取り、買い物や近隣のドライブ等戸外に出かけるよう支援に努めている。また、近隣の畑を借用し、家庭菜園を行い、短時間でも戸外に出る機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方については、外出や買い物の際普通に出納して頂いているが、ほとんどの方が金銭の管理自体を面倒だと思われるのが実情である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜早朝の時間以外は、ごく普通に連絡ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ところどころにソファーや観葉植物、季節の花を置いて、ゆったり過ごせるようにしている。利用者がソファーで談笑したり、昼寝をしたりされることがいつもみられる。	利用者がゆったり過ごせるように、各所にソファー・観葉植物、季節の花が配置してあり、調光も明るく、利用者が家庭的な雰囲気です日々暮らせる工夫がなされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー3箇所と和室が1箇所あり、それぞれの空間で、自分のペースで思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を置いて頂くようにしている。自宅から人形やこたつ、椅子などが置かれ、それぞれの個性が感じられる。	居室には、使い慣れた家具、日用品や写真、思い出の品が持ち込まれていた。掃除もゆきとどいていて、個々の利用者が居心地良く日々の暮らしができるよう工夫された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ表示を図柄にしたり、居室出入口に矢印を書き方向を示したりしている。今のところ、場所の見当識は比較的保たれており、混乱はあまり無い。		